



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：新大統領選出

2014年6月10日、イスラエル国会の次期大統領選挙の決選投票で、リクードの前国会議長ルーベン・リブリン（74歳）が63票を獲得し、次期（10代目）大統領に選出された。決選投票に残ったもう一人の候補ハトゥヌアのメール・シトリット議員は53票を獲得した。大統領の任期は7年。9代目のシモン・ペレス大統領（2007年7月15日就任）は、7月下旬で任期が終了する。今回の大統領選挙では5人が立候補していた。

リブリン次期大統領は、1939年エルサレム生まれ。19世紀にエルサレムに移住した家系の出身で、リブリンは8世代目と報道されている。兵役を終えた後、一時プロ・サッカー選手だった。エルサレム市議会議員を経て、1988年リクードの国会議員として初当選した。90年代に一度落選したが、1996年選挙で再選され、2001年シャロン内閣で通信相、その後国会議長を2期（2003年、2009年）務めていた。リブリン議員は、リクードが分裂を繰り返す中でもリクードに留まり続けた。イスラエルのメディアの報道によれば、次期大統領は、パレスチナ国家創設に反対で、西岸をイスラエルに併合し、パレスチナ人にイスラエルの市民権を与えることを持論としている。またネタニヤフ首相との関係は良くなく、ネタニヤフ首相はリブリンの大統領選出を阻止しようとしたとされる。

2014年1月、長年意識不明であったアリエル・シャロン元首相が死去した。その結果、ペレス大統領（90歳）が、イスラエル建国を行った世代の最後の現役政治家となった。リブリン新大統領は、建国前の生まれであるが、イスラエルが独立宣言をした時はまだ子供であり、建国の事業には参加していない。ペレス大統領が大統領任期終了後に政治活動を行うとしても、イスラエルの現役の大統領・国会議員は、建国時は子供だったか建国後生まれの世代になる。

イスラエルの大統領は、象徴的なポストで政治の実権はない。大統領は、国会選挙後に首班指名を行う。従来は、第一政党の党首が自動的に首班指名を受けており儀礼的な権限だった。しかし、最近では、第一政党の党首でなくても、議会（120議席）の中で、過半数の支持を得られる可能性が高い政党の党首が首班指名を受ける場合がでてきている。現在ハトゥヌアの党首のリブニ党首は、カディマ党首時代に2回の選挙で第一政党の党首になりながらも首班指名を逃している。このこともありネタニヤフ首相は、大統領の首班指名の権限を変更するため大統領選挙を先送りしようとしたと報道されていた。

（中島主席研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799